

学校だより

だいなん



大南っ子

学校教育目標

個性豊かで、思いやりの心や考える力のある児童の育成めざす
児童像 3つの「あ」

だ「だれに対しても自分から元気よくあいさつする子」

い「いつでも ありがとうの 感謝の気持ちをもつ子」

なん「なんでも 最後まで あきらめない子」

北九州市立大里南小学校 校長 橋 口 誠

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思ひます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一面面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている。	・全体的には、全国平均正答率をやや下回ったものの、昨年度より上昇し、話すこと・聞くこと(話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける)は基礎ができていた。・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことや書くことについては課題があり、漢字の習得を高める家庭学習の工夫が必要である。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	・全体的には、全国平均正答率をやや下回ったものの、昨年度より上昇していた。 ・自分の意見を書くことや国語への関心・意欲・態度を高めることに課題がある。
数学A	全国平均正答率を下回っている。	・全体的には、全国平均正答率をやや下回った。特に数量や図形についての技能や知識・理解を高めることに課題がある。
数学B	全国平均正答率を下回っている。	・全体的には、全国平均正答率をやや下回ったが、数量や図形についての技能については、昨年度より全国平均正答率を上回った。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・授業では、「自分の考えを発表する機会が与えられている」と答えている児童は、全国と比較してその差が広がっている。しかし、年々わずかではあるが、「発表する機会が与えられている」と答える児童は増えつつある。また、話し合う活動を通じて、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えている児童も全国と比較して、その差が広がっている。主題研究(算数科の実践を通して)や各教科の学習の時間に発表する機会や話し合い活動の時間を十分確保し、話し合い活動を通して思考が深まる授業を行っていく。

・うまく伝わるような話の組み立て方の工夫については、各学年に応じた発表の仕方を教室に掲示し、朝の会や帰りの会のスピーチタイムで活用したり、授業の中での発表やまとめの発表の場を設定したりして、発表することへの抵抗を少なくする。

・授業の振り返りについては、昨年に引き続き主題研究(算数科の実践を通して)のノート指導を中心に各学年の内容をさらに工夫しながら、今年度は全学年取り組んでいきたい。・別紙の通り

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

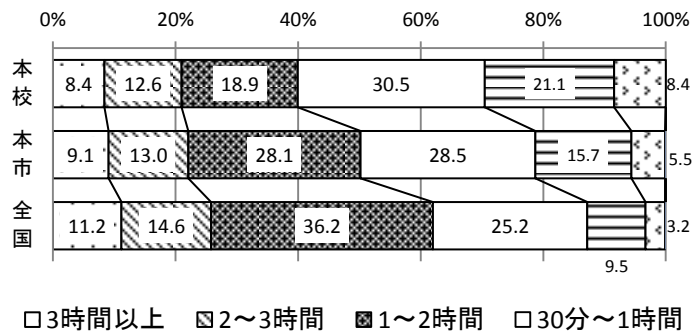


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

・1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、年々増加の傾向にある。しかし、全国と比較して、家庭学習の時間が、30分以内21.1%、まったくしない8.4%と差が大きく課題である。つまり、家庭学習の絶対量が少なく、全校で時間のめやすを示したり、各学年に応じて家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。
 ・自分で計画して勉強をしている児童の割合も全国より10ポイント以上差がある状況が続いており課題である。各学年に応じて、計画的に宿題や自主学習ができるように、指導支援していきたい。また、保護者にも協力を求めたい。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・将来の夢をもっている児童は、全国と同じ割合である。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる指導が必要である。
 ・テレビやテレビゲーム、インターネットなどの接触時間が全国平均を上回っており、課題がある。特に、テレビ等の接触時間が3時間以上が46.4%、テレビゲーム等の時間が3時間以上27.3%、インターネットの時間が2時間以上25.3%という結果から、家庭と連携を密にする必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習で、<大南タイム1>(8:40～50一週5回、曜日によって課題を設定)と<大南タイム2>(8:50～55一週5回、宿題の〇付け)を全校一斉に実施
 - ・<子どもひまわり学習塾>毎週火曜日と木曜日の16:15～17:00に4年・5年希望者で実施
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートや過去問題、宿題プリントを宿題に出し、基礎基本の徹底を図る。
 - ・アシストシートや過去問題を冊子にして、夏休み・冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- ◎ 「書く」ことの習慣化
 - ・主題研究(算数科の実践)によるノート指導を評価に生かす。さらに、学習の最後に、振り返りを書くようにする。
 - ・各教科の学習の足あとをノートに残す。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・家庭学習時間や内容の設定
 - ・「家庭学習の手引き」の作成・実施
 - ・毎日プリントを1枚(復習)+漢字ドリルや計算ドリル等のスキル学習、読書や音読、リコーダーの練習等
 - ・自主学習ノートの活用
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・家庭学習マイスター賞への応募
 - ・夏休み・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者に通知
 - ・学年・学級懇談会や家庭教育学級等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を図る。
- ◎ 音読発表
 - ・全校朝礼等、集まる機会を活用して、学年音読、全校音読をする。